
青春の肖像 4

山之内 白洞人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青春の肖像 4

【Nコード】

N 8 1 2 1 F

【作者名】

山之内 白洞人

【あらすじ】

遠い昔の淡い恋の思い出を語ります。

第4章

4 出会い

それから1週間後、朝まだき、私は学校の校門に立っていた。というより出勤してこれから入ろうとしていたのである。

その時、見知らぬ1人の少女が私の先にいた。

セーラー服に身を固めた？髪の長い少女。

私は思わず「おはよう」とすつとんきような声で挨拶した。

「おはようございます。想像してたとおりの、せんせいだったな」少女はそんなことを言うと、すつと校門の中に消えていつてしまった。

私はなぜか落ち着かず、その子のことが気にかかって仕方なかった。職員室といっても教員は、私を入れても、8人ばかりの小世帯。朝のホームルームが始まろうとしていた。

そして教室へ入ると、
渡部さんが「先生、木暮さんが来てます。」
と大きな声で言った。

その視線の先には
あの少女がいた。

山下先生は

「えーと、木暮さんははじめてだよ。山之内先生です。この子は木暮野梨子さん、

実家は旅館です。軽井沢近くの割とふるい旅館ですよ、

新学期から来ていただいた、この先生は山之内先生。出身は隣県の方ですよ。」などとどうでもいいようなことを並べ立てていた。

木暮さんはニコニコしながら、「やっと良くなったのででてこられた」なんて

ともだちに話しかけていた。

実は私は、この僻地校へ派遣され、4月も終わりにかけていたその頃、すでにホームシック？でやめて戻ろうかななんて思っていたのだった。

なぜって、23歳の夢見がちな私にとってここはあまりにものどかで、自然すぎて、やりきれなかったからだ。

しかし、野梨子を見たとき、何かが起こった。

大きさに言えば運命をすら、この出会いに感じたのだった。しかし、現実私の思い通りには決してならず、

今こうして、35年たっても甘くやるせなく、私の脳裏に去来し続けているのである。

野梨子はゾフィーではなかったし、その障害は当時の私にはあまりにも重すぎたのであったのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8121f/>

青春の肖像 4

2010年11月26日06時44分発行